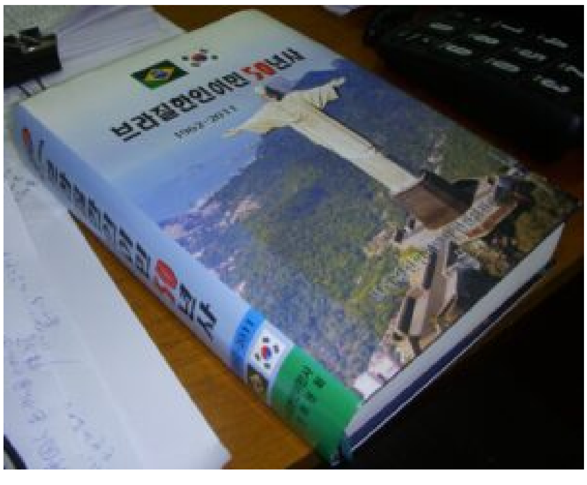
브라질한인이민

日本統治と独立の端境期に生まれ育つ

鄭さんは１９３８年、慶尚北道亀尾市で生まれた。第２次世界大戦と３６年間の日本の統治が終焉を迎えた１９４５年には小学１年生だった。戦後の貧困と混乱が続く中、小学６年生の時には朝鮮戦争が本格化し、その後、希望を胸にソウルに上京して韓国中央大学に入学したが、１９６０年には4・１９革命が起こり、学費も払えなくなり中退を余儀なくされた。

学生生活の間は、日本の朝日、読売、毎日、日経の４紙の新聞配達員として働いていた。当時、現在の価値で月１万円ほどに相当する契約料だったこれらの邦字紙を、韓国の企業や富裕な有識者が購読していた。

配達だけでなく、日本語の記事を読み、北朝鮮出身者が活躍するような話題は墨塗りにするアルバイトも行っていた。北朝鮮に関する悪いニュースはそのまま残されていたという。約半年間の経験だったが、この時に初めて本格的に日本語の読みを勉強した。

政治的意図での日韓対立に渇

「今の韓国の文在寅（ムン・ジェイン）大統領は日本を敵視しています。政治的意図で国民に反日感情を植え付けようとするのは危機な時代だと感じます」と、現在と未来の日韓関係を危惧する。

「確かに戦前の３６年間の日本統治は悪い面もありましたが、良い面もありました。現実にそのことを実感として知っているのは我々世代が最後です。その事は声を大にして伝え、地理的にも歴史的にも近い両国は仲良くすべきなのに、対立に向かうのは間違っているし、悲しい」と、近年の日韓関係を憂う。

達筆な鄭夏源さん

鄭さんの知る所では、日本の統治が始まる以前から、韓国では特権階級が農民を搾取して韓国人同士で対立していたにもかかわらず、後で来た日本ばかりを悪く言うようになった。

さらに文大統領は、東学党の乱（１８９４）を巡って大日本帝国と清朝の対立が激化し、日本が朝鮮に出兵することにもなったことを上手く持ち出し、この乱で命を落とすことになった農民の子孫に賠償金を支払うという話も積極的に進めてきた。

「良識のある人々は皆おかしいと思っています」と、鄭さんは語気を強める。（つづく）